

【市長あいさつ（要旨）】

昨年は「平成」から「令和」へ、時代の大きな節目を迎えた年であり、記憶にも記録にも残る年であった。また、私の3期目のスタートとなった年でもあった。

4月には、本市の持続的な産業・雇用・財政の基盤形成を目的とした「こまき新産業振興センター」を開所し、市内の企業を「成長産業への参入促進」「新事業展開の促進」「生産性革命の推進」の面から強力でサポートしてきた。

また、小牧山城史跡情報館「れきしるこまき」をオープンし、近年の発掘調査で明らかとなった織田信長公が築いた小牧山城の石垣や城下町、小牧・長久手の戦いなど、小牧山を取り巻く歴史を、模型や映像を多く使って分かりやすく紹介し、小牧山城をはじめ、小牧山の魅力を発信してきた。

5月には、尾張北部医療圏における中核病院として、新小牧市民病院が開院し、安全で良質な医療を提供することで、市民の皆様が安心して暮らせる地域の実現が図れたのではと思っている。

8月には、誉高等学校野球部が全国最多の188校が競った愛知大会をノーシードから8試合を勝ち抜き、甲子園初出場という小牧市始まって以来の栄冠に輝いたことは、私をはじめ市民に大きな夢と勇気と感動を与えてくれた。

そして、小牧の新しい祭りとして「こまき令和夏まつり」についても、多くの市民の皆様にご参加を頂き、盛大に開催することができた。

公募団体によるパフォーマンスや総踊り、歴史ある小牧神明社の秋葉山車の総揃えなど、伝統を受け継ぐとともに新たな魅力を加えた、これからの小牧の夏の風物詩とすることを目指して、小牧の過去と現在と未来を結ぶそんな祭りになったのではと思う。

一方で、9月から10月にかけて発生した台風15号及び台風19号は、関東地方をはじめ甲信地方や東北地方など、広範囲に甚大な被害をもたらした。本市としても、職員の派遣や支援物資の送付など、微力ながら支援をさせていただいたところである。

自然災害の脅威を改めて思い知らされているところであるが、今後も行政として適切に判断・対応することで、災害に強い安全・安心なまちづくりの実現に一層努めていく。

今年、本市にとって、市制施行65周年を迎える記念の年であり、自治基本条例に基づく基本計画、「まちづくり推進計画」の本格的な運用が始まる年である。

市民憲章に掲げる理想のまちを実現するため、3つの都市ヴィジョン「こども夢・チャレンジNo.1都市」、「健康・支え合い循環都市」、「魅力・活力創造都市」を機軸に、市政戦略編の3つの戦略、分野別計画編の30の基本施策、そして自治体経営編の4つの基本施策により、「活力ある高齢社会（小牧モデル）」の創造と「若年世代の定住促進」を図るよう全力で取り組んでいく。「住みたい」そして「住み続けたい」魅力と活力あふれる夢ある小牧市の創造に向け、全力で取り組んでいく。

本年9月には「子育て支援の拠点」と「こどもが主役となる拠点」となる（仮称）こども未来館が開館予定である。

さらに、小牧駅西側の新図書館建設も着々と進んでおり、「小牧駅前広場等」の三位一体の整備により魅力あふれる小牧の創造を進めている。

まさに、明るい小牧市を次世代に引き継ぐために、「未来へのヴィジョン」をしっかりと描いてきたものが形となるものであり、今後も弛まぬ努力と挑戦によって、小牧市を守り抜き、住みよく誇れるまちに発展させていかなければと強く思うところである。

これまで、全庁一丸となって「自治体経営改革」「協働改革」「行政サービス改革」「財政改革」の4つの改革に取り組み、時代の変化に対応した行政改革を進めてきた。

今後も、AIやRPAなどに代表されるICTを積極的に活用し、Society5.0を見据えた未来社会をいち早く実現することで、今までにない新たな価値を生み出し、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題を克服していかなければならない。

そして、社会の変革（イノベーション）を通じて、閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を越えて互いに尊重し合える社会、一人ひとりが快適で活躍できる社会、そして“誰一人取り残さない”持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現していきたい。

本年も、皆様のご理解とご協力を賜りながら、市政を進めていく。

【説明要旨】

《認知症高齢者等個人賠償責任保険事業について》

まずこの事業の目的は、認知症の高齢者等が事故などにより加害者として損害賠償責任を負った場合に備え、個人賠償責任保険の保険料を公費で負担し、認知症の方やその御家族の不安と負担を軽減し、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりを推進するものがある。

具体的には、民間の保険サービスを利用し、市が契約者として個人賠償責任保険に加入し、現在、40歳以上の市民を対象に取り組んでいる認知症高齢者等見守りステッカー事業の登録者を中心に、希望する方を対象としていきたいと考えている。

補償の具体的な対象については現在検討中であるが、例えば電車の線路への侵入などによる運行の遅延や、他人にけがを負わせたり財物の損壊等に対して、最大1億円を補償する内容を想定している。

市としては、民間の保険サービスを利用することで、事故が起きた際の補償の可否や被害者側との示談交渉などを含め、速やかな被害者救済に期待できるものと考えている。

実施時期については、保険会社の選定や市民周知など事務手続を経て、令和2年の6月ごろの開始を目指していきたいと考えている。

《空家等対策について》

小牧市における空家等対策に関する協定の締結について、令和2年1月9日、空き家対策に取り組んでいる公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会と協定を締結した。協定締結の目的は、相互に連携・協力し、空家等の流通及び活用を促進し、空家等の発生の抑制及び適切な管理を図ることにより総合的な空家等対策を推進するとともに、住みたくなる、住み続けたい小牧を目指すためである。

具体的な取り組みとしては、1.空家等の流通及び活用の促進に関すること、2.空家等の発生の抑制及び適切な管理に関すること、3.所有者等からの相談体制の整備に関すること、4.1から3の必要な情報発信の4点である。

なお、1の空家等流通及び活用の促進に関することについては、空き家利活用サポート体制の構築として、空き家を相談から売買、賃貸まで、一括サポートの体制を構築するものである。

次に、空き家対策セミナーの開催である。

協定締結後の具体的な取り組みの一つとして、令和2年2月2日日曜日午後1時から、東部市民センター講堂において、公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会と連携し、空き家対策セミナーを開催する。

その内容は、第1部が講演会、第2部が個別相談会となっており、詳細についてはチラシを御参照いただきたい。

《ワークショップ「スピードワゴン井戸田PR隊長と考える“これからのこまきのPR”」の開催について》

昨年発足しました小牧市PR隊がいよいよ本格稼働するに当たり、このたび、小牧市出身のタレントでありますスピードワゴンの井戸田潤隊長をはじめPR隊員が山下市長とともに、“これからのこまきのPR”についてをテーマにワークショップ形式で話し合いを行う。このPR隊員は、昨年、インスタグラム開設記念として実施しましたフォトコンテストの優秀投稿者として800を超える投稿の中で選抜された10人で、今回はそのうちの9人の方に参加をしていただく予定である。

ワークショップでは、まず本市の現在のイメージを隊員全員で情報共有し、その後に目指すべき「こまき」のイメージについて意見交換し、これからのPR隊の活動展開を話し合っていたいただく。

当日は、本市が情報発信やPR活動について連携協定を締結している名古屋文理大学の先生にも参加いただき、PRの専門家として適宜アドバイスをもらう予定である。

日時は今月21日火曜日の午後7時からである。これは隊員の方もお勤めなどがあり、夜間のほうが出やすいとの意見をお聞きしたことと、隊長の井戸田さんのスケジュールによるものである。毎週水曜日の朝からメ〜テレで出演されている情報番組「ドデスカ！」があり、そのため火曜日の夜には井戸田さんが名古屋にいらっしゃることから、今回実現できたものであり、場所は市役所である。

PR隊の活動は、行政からの一方的な発信ではなく市民による市民のためのもので、市民協働にもつながる新たな広報、PRのツールとして非常に期待しており、我々も今後の展開を楽しみにしているところである。